



ことしの 市政は

どうなる

市長、議長を囲んで、新しい年の市政を語る対談が、十一月二十七日、後免町公民館で開かれました

ことしは、農協合併、ゴミ焼却場の着手、市庁舎の完成など、みのり多い年でした。が、その反面、9・15集中豪雨の大惨事もあり、行政的には、あわただしい一年であったといえます。

そこで、ことしの市政をふりかえるとともに、新しい年の「南国市の行政縮図」を、市長、議長に語ってもらいました。

懸案事項を實現

資料をつっしりかかえこんだ市長をむかえて――。まず、広報委員会で作っている「南国市庁舎（仮題）」の試写。小・中学生の社会科用、市庁舎建設の記録に、と企画したもの。カメラマンは田中隆夫中央福祉館長（前・広報委員）。広報委員会が井上清プロダクションに委託して、はじめて製作した「南国市」の助手として活躍しただけに、なかなかのどきばえ。起工式でくわ入れする市長、壁面の審議をする議長など、おなじみの顔がでてくるたびに歓声がわく。

にわかづくりの日本間の映画館からホールに移って、市長・議長

と広報委員長との対談がはじまる。

まず、山本尚一広報委員長が立つて「ことしは市庁舎の建設、農協合併、ゴミ焼却場の着手など、懸案の課題を一挙に実現したすばらしい年であった」と切りだすと、金堂市長も「ことしの新年座談会で、市庁舎、農協合併、ゴミ焼却場の実現を約束したが、広報で宿題を背負わされると、やらなかつたら公約違反になるので……」。広報委員からも、ドツと笑い声がでて明かるいムード。

そこで委員長も「広報誌も来年は月二回発行で、市民に愛され、親しまれるものになりたい」とちょっぴりPR。

本題に入り、はじめに「ことし三月十八日、浜改田漁協が放水路を金網で封鎖。ゴミ公害、ビニール公害は全県下的な問題に発展、



市長 金堂

市では、毎月第二日曜日を清掃の日として、市民総ぐるみのゴミ追放運動がはじまった。そして、市民と行政側のたゆまない努力で、園分川ぞいの甘枝にゴミ焼却場の建設がはじめられ、四十九年一月には操業にかかれるという大きな

成果があった」と大きく評価。

市長も一つ一つうなづきながらも「地元の反対者から、要求書が具体的にでてきている。単年度ですぐ解決できないものもあるが、逐次、周辺の整備にとりかかっている」と周辺の市民に目をむける。

まちづくりの基本、下水

そして、「無煙、無臭、無菌で公害のない焼却場をつくるため、地元の意見をとり入れ、電気集じん器を七千六百万円でつけるようにした。ゴミ焼却場という、いやなイメージのないように、周辺は緑樹、池などで公園化する。そして、ことしの遊び場、老人のいこいの場として、快適な環境づくりにとめたい。従業員も希望があれば地元の人を優先して入れた」と結びました。

そして、今後のゴミ収集については「ステーション方式の週二回収集にとりかかると、収集業者に委託して、都市計画区域の全地区を収集。将来は上倉、瓶岩地区にも広めて、きれいなまちづくりにつとめる」と意欲のほどをみせ、もう一つの大きな課題となつていきます。し尿処理の問題にもふれ「し尿処理は、浸とう槽への投棄、処理の委託など、年間一千五百万円の経費がかかっている。五十年を

用途に、海や山への投棄はできないと思う。そうすれば広域行政のなかで大きな処理場の建設が望まれ、高知市に働らきかけて実現したい。また、家庭の水洗便所の処理など、下水をどうするか、まちづくりの基本となる。

これからの重大な問題は、公害環境の問題だ」と新しい公約を披露。

農協合併には「五月一日には、県下一のマンモス農協、南国市農協がスタートした。十三農協の大同合併は実現しなかったが市と農協との協力関係」について質問。市がなかにはいつ合併推進の音頭をとっただけに、未合併の三農協は熱心で業績があがっているが、新農協は積極性がないという農業者の声が市長にあるという。そこで市長は「ボートは手こぎでも動くが、軍艦はボイラーがあたたまり、エンジンがかかるまでに時間がかかる。ちやうど市の合併のときと同じで、動きだせば大きな実績があげられる」と、得意の例え話で笑いのウズをつくる。

そして「基本的には十三農協の合併で、未合併の三農協については今後話し合っていきたい」。



例の十日間休会で災害対策にうちこんできただけに議長も真剣。自ら災害特別委員として被災地を巡視、国・県への陳情に東奔西走。

「自然の力、濁流のおそろしさをつくづく感じた。山くずれ、がけくずれを未然に防ぐため、総点検が必要だ」と防災対策を指摘。

「市長らと建設、農林など各省をまわった。激しん災害の指定、特別交付税、起債の増額などを陳情。激しん災害の指定については大要料などを各めて、近く指定されるのではないか」

そして「国分川や支流の改修に

進の音頭をとっただけに、未合併の三農協は熱心で業績があがっているが、新農協は積極性がないという農業者の声が市長にあるという。そこで市長は「ボートは手こぎでも動くが、軍艦はボイラーがあたたまり、エンジンがかかるまでに時間がかかる。ちやうど市の合併のときと同じで、動きだせば大きな実績があげられる」と、得意の例え話で笑いのウズをつくる。

そして「基本的には十三農協の合併で、未合併の三農協については今後話し合っていきたい」。

市民サービスにメス

「補佐官」制度も？



橋田 議長

「市庁舎の建設、農協合併、ゴミ焼却場、ゴミ焼却場、庁舎の建設など、市のふさわしい近代的なもの。市のシンボルマーク「ナ」を形どったスマートな外観、一階から三階まで吹き抜いた、長尾鶏の大き壁画、旧庁舎を取りこわした広い駐車場、駐車場と二階を結ぶオーバ―ブリッジ、議場や大会議室の充

つづいて市庁舎の建設。市庁舎は戸田建設(株)と契約、昨年十一月八日起工、一年あまりの工期で、この十二月十日竣工、二十四日落成、そして新春四日が仕事はじめとなったわけだ。

総工事費、約四億四千万円、地下一階、地上五階。県下第二の都市にふさわしい近代的なもの。市のシンボルマーク「ナ」を形どったスマートな外観、一階から三階まで吹き抜いた、長尾鶏の大き壁画、旧庁舎を取りこわした広い駐車場、駐車場と二階を結ぶオーバ―ブリッジ、議場や大会議室の充

「ここで市民の代表ともいえるべき、委員長が『市民の期待は市庁舎ができて、市民サービスがどんなになるか。そこが焦点だと思っが』と、やんわりもちだす。市長も全く同感。

「庁舎の配置は、市民の利便を第一に考えた。一階には窓口案内係をおいて、市民がとまどうことのないようにする。近代的な行政官理のできるように機構の改革が必要で、プロジェクトチームに諮問した。これは管理職である課長を除く若い職員十人で構成するもの。答申によると、部長制、助役の二人制については時期尚早。現在の

課の設置については、より効率的な行政運営のできるように、二課ぐらい減らすという答えがあった。また、アメリカのキッチンジャー補佐官のように(笑い)市長、助役の補佐官をおいては、という答申があつたが、身分や格付けの問題など研究したい。実施は四月一日からになる。」

市民の要求、要望は多種多様となり、行政の需要は激増してしまふ。こうしたなかで、よりよい行政効果をあげていくためには、庁舎の建設を機会に、旧庁舎の感覚から、近代的な行政感覚に頭の切り替えが必要だろうし、機構もそれにみあった抜本的な改善が望まれているといえよう。そしてとかく不平の多い市民サービスのあり方にもメスを入れる必要がありそうである。

河川の抜本的改修

「庁舎の建設、農協合併、ゴミ焼却場、ゴミ焼却場、庁舎の建設など、市のふさわしい近代的なもの。市のシンボルマーク「ナ」を形どったスマートな外観、一階から三階まで吹き抜いた、長尾鶏の大き壁画、旧庁舎を取りこわした広い駐車場、駐車場と二階を結ぶオーバ―ブリッジ、議場や大会議室の充

「こころ」の目標 文教施設・災害復旧・道路・老人福祉

「開発公社は銀行、信連などの資金五億円を十億ぐらいに回転して土地の先行取得をした。行政需要をみたすためには、より多くの資金が必要で、四十八年度を目標に五十億の事業のできる市単独の開発公社をつくる計画だ。すでに総合グラウンド用地として比江に二万二千坪、市民会館の用地も買っているが、これは一町歩たらずなので、新しい公社ができたとき、より広い用地を取得する」と市長はいいます。

「赤字」やむをえない

「庁舎の建設、集中豪雨などがあったが、財政的な見直しはどうか税率の引き下げは」と質問。市長は「市民税は四十九年度までに標準税率を下る。四十六年度の決算で五百万円もの赤字を出したが、できる限り市民の需要をみたすことに重点をおいているので、少々の赤字はやむをえない。何んにも事業しなければ赤字になる。が、貯金通帳をみて喜んでいようでは行政の進展がない」と強気な発言。

全国的に地方財政は好転しているとはいえないが、自主財源が乏しく、経常経費が多く、硬直化の傾向にありまふ。しかし、市民の要求、要望は激増しており、事業の低下をきたすわけにもいかず、苦しい事情にあるようです。とくに土地の高騰などが行政の足をひっぱる原因ともなっています。このため開発公社が発足、五億円の運転資金をフルに活用して、公共用地の先行取得をしています。



山本 広報委員 長

「開発公社は銀行、信連などの資金五億円を十億ぐらいに回転して土地の先行取得をした。行政需要をみたすためには、より多くの資金が必要で、四十八年度を目標に五十億の事業のできる市単独の開発公社をつくる計画だ。すでに総合グラウンド用地として比江に二万二千坪、市民会館の用地も買っているが、これは一町歩たらずなので、新しい公社ができたとき、より広い用地を取得する」と市長はいいます。

また「都市計画の道路として国鉄ごめん駅から南国バイパスまで25日道路がつく、大篠小中学校の移

「水道」全部舗装

最後に四十八年の重点目標に入り、市長がまず発言。

「学校の改築など文教施設の充実、災害復旧、道路を三本の柱とする。水道は全部舗装をすまふ。」

また、議長は、議決機関であるので越権にはあたりはけないが、ことわつたあと「道路ができてこまごまの発展がある。軽舗装でいいから全地区やるべきだ。老人医療、国民年金など老人福祉を重点的にとりあげ、不幸なもの、谷間のもの引きあげが大切だ。また、庁舎の完成に関連して「議場も新装なつた、傍聴席も立派にできたので気軽に市民の参加をまわつて。常任委員会室もでき、議員活動が活発にできるようになつた。これを契機に講師などを招いて勉強し議員の資質向上につとめたい」と話されました。

開発公社 五十億円の事業

市民会館の用地など

「庁舎の建設、農協合併、ゴミ焼却場、ゴミ焼却場、庁舎の建設など、市のふさわしい近代的なもの。市のシンボルマーク「ナ」を形どったスマートな外観、一階から三階まで吹き抜いた、長尾鶏の大き壁画、旧庁舎を取りこわした広い駐車場、駐車場と二階を結ぶオーバ―ブリッジ、議場や大会議室の充

「今年度の計は元旦にあるといわれ、市民一人一人のしあわせのために、ご尽力を願います。」と結び南国市のよりいっそうの発展を約して散会しました。

「一年の計は元旦にあるといわれ、市民一人一人のしあわせのために、ご尽力を願います。」と結び南国市のよりいっそうの発展を約して散会しました。